



Business overview

Ver.1.1 (2021.8.10)



INDEX

01 COMPANY

会社概要 | ビジョン | プロダクト

02 MARKET & TARGET

宇宙産業市場 | 衛星市場 | ロケット市場 | 顧客とニーズ | ISTのターゲット

03 OUR ROCKET "ZERO"

ロケットの仕様 | 提供価値 | 採用技術

04 ADVANTAGE

ロケット実績 | MOMO | 量産設計 | 開発体制

05 NEXT STEP

Our Stars | 北海道スペースポート | ビジネスモデル | ZEROを超えて

06 COMPANY DETAIL

会社実績 | パートナー | メンバー

07 REFERENCE



01

COMPANY

会社概要 | ビジョン | プロダクト





INTERSTELLAR TECHNOLOGIES

インターステラテクノロジズ株式会社

北海道広尾郡大樹町字芽武149-7

東京支社：千葉県浦安市当代島1-1-11-フォレストビル 6-A

室蘭技術研究所：室蘭工業大学 地方創生研究開発センターT207室

代表取締役社長：稲川貴大 従業員数：60人



ロケットは宇宙への輸送業

ロケットは宇宙への唯一の輸送手段です。

インターステラテクノロジズは、民間ビジネスとしてロケット開発と宇宙輸送サービスを実施しております。

VISION - 未来像 -

誰もが宇宙に手が届く未来をつくる

MISSION - 使命 -

世界で選ばれるロケットをつくる

VALUES - 価値基準 -

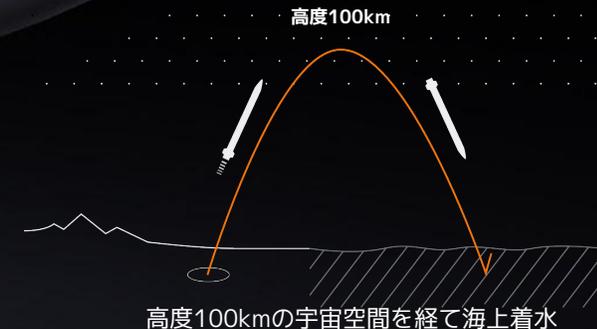
みんなのロケット

MOMO

観測 ロケット

L: 10.1m / Φ :0.5m / Single Stage

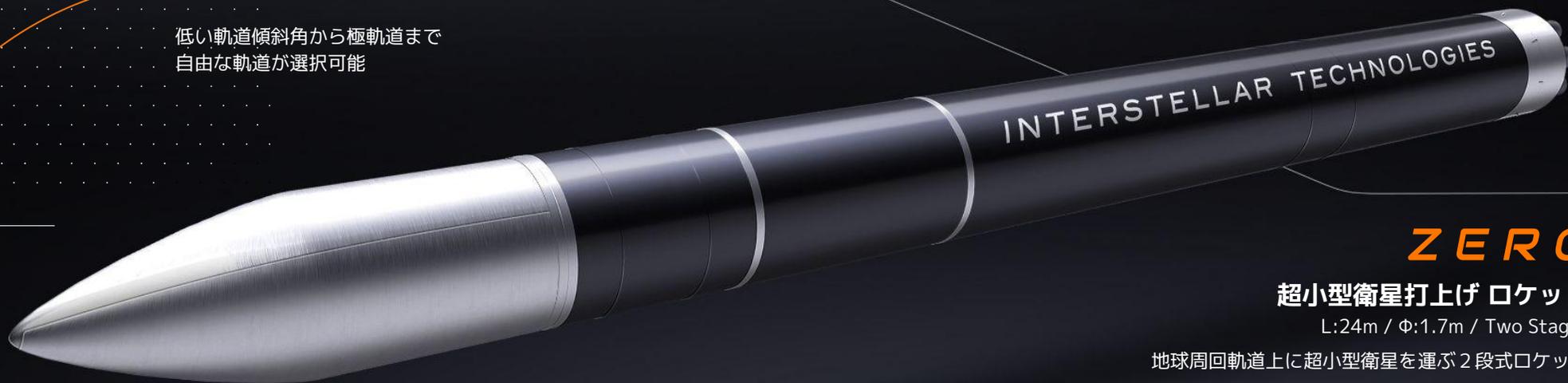
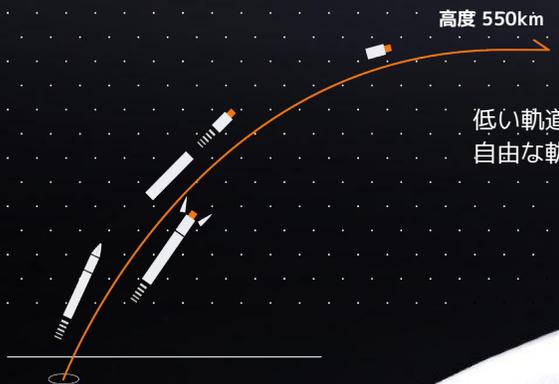
微小重力環境の科学実験などを実施
2019年5月 打上げ3回目にして宇宙空間に到達



高度 550km

地球低軌道・極軌道

低い軌道傾斜角から極軌道まで
自由な軌道が選択可能



ZERO

超小型衛星打上げ ロケット

L: 24m / Φ :1.7m / Two Stages

地球周回軌道上に超小型衛星を運ぶ2段階ロケット

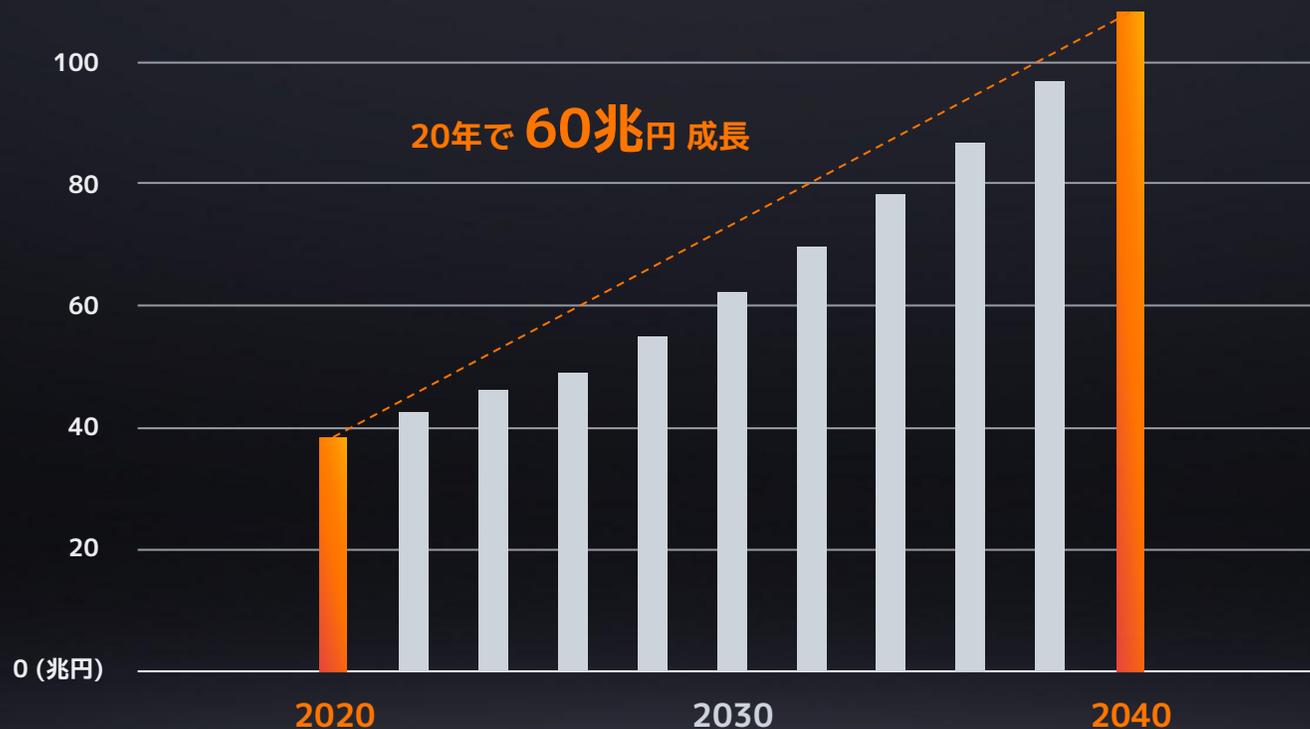
02

MARKET & TARGET

宇宙産業市場 | 衛星市場 | ロケット市場 | 顧客とニーズ | ISTが対象とする衛星 | ISTのロケット

世界の宇宙産業市場

2040年に **100兆円** に成長すると見込まれている



世界の宇宙産業 市場規模予測

参考：Morgan Stanley “Investing in the final Frontier”

世界の小型衛星市場

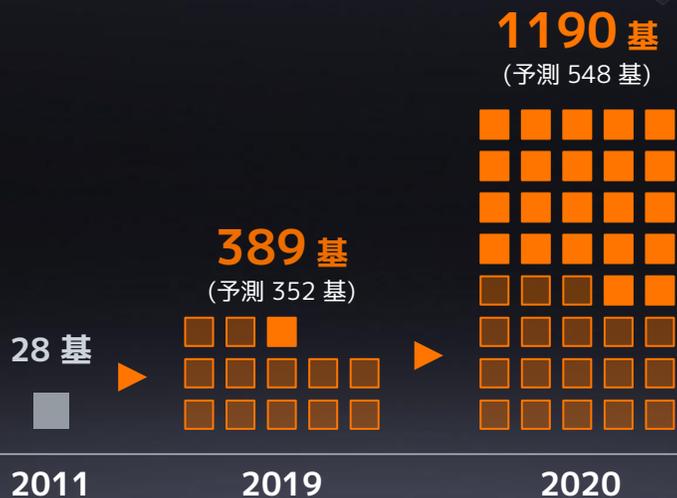
グローバルでの小型人工衛星の需要は急激に伸びている

大型・少数



小型・多数
「コンステレーション」
の時代へ

2003年に東大・東工大が超小型衛星を初めて打上げ成功させたのち、世界中で小型衛星の商業化が進んでおり、高い成長率が予測されます。特に500kg以下の小型衛星の需要は2010年代から急激に成長し、150kg以下の超小型衛星の需要も高まっております。



(500kg以下小型衛星の打上げ実績)

小型衛星の利用方法

<p>通信</p> <p>全地球インターネット 衛星電話回線</p> <p>政府 (安全保障) 民間 (SpaceX・Amazon・OneWeb)</p>	<p>情報収集</p> <p>狭帯域通信・データ収集</p> <p>民間 (Spire・Swarm Technologies)</p>
<p>リモートセンシング</p> <p>カメラやレーダーで地球を観測</p> <p>政府 (安全保障・科学) 民間 (Axelspace・planet・Black sky・Orbital Insight)</p>	<p>テクノロジー</p> <p>新技術の実証実験</p> <p>民間・政府宇宙機関 (JAXA)・大学</p>
<p>安全保障</p> <p>ミサイル早期警戒・宇宙天気予想・レーダー位置把握・地球近傍物体監視</p> <p>政府 (内閣官房・防衛省)</p>	<p>科学</p> <p>宇宙物理学・天文学・惑星科学・深宇宙探査</p> <p>政府宇宙機関・研究所 (JAXA)・大学</p>
	<p>軌道上サービス</p> <p>軌道上製造・ラストマイル</p> <p>政府宇宙機関・民間 (Northrop Grumman・Momentus・Astroscale)</p>

小型衛星に適さないアプリケーション
放送 (BS/CS)・測位 (GPS)・気象 (ひまわり)

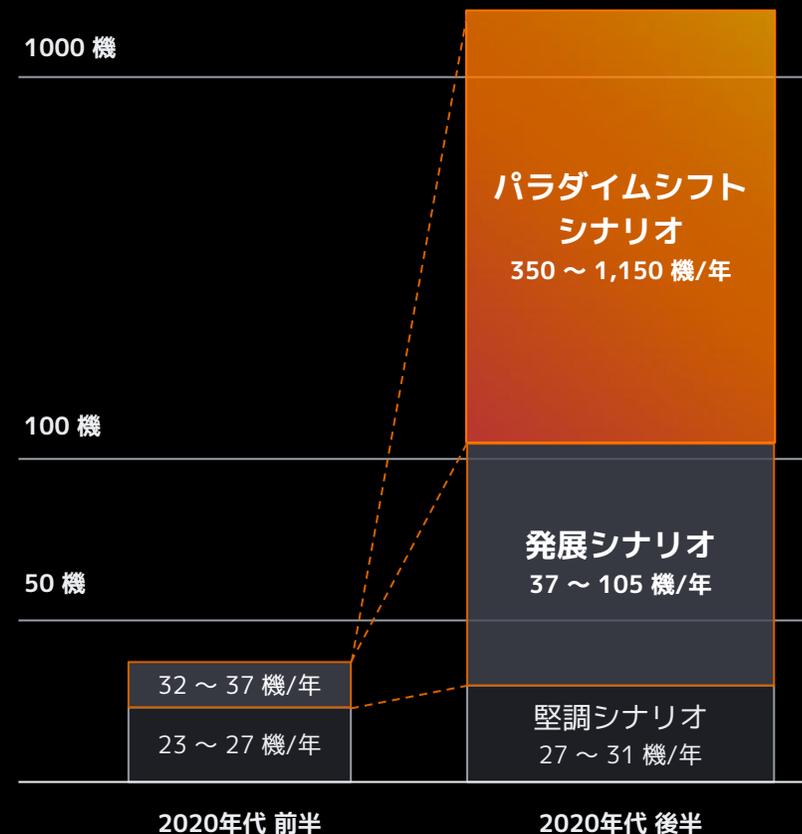
国内の小型ロケット市場

年間数十回以上の小型ロケット打上げ需要が存在する



内閣府による国内で獲得できる小型衛星の需要調査レポートより
世界中の小型衛星の需要のうち
200kgを超える衛星・軍用衛星・既に決まっている衛星を除く

国内の小型衛星打上げロケットの需要予測



参考：内閣府 宇宙開発戦略推進事務局「小型・超小型衛星の打上げ需要調査」

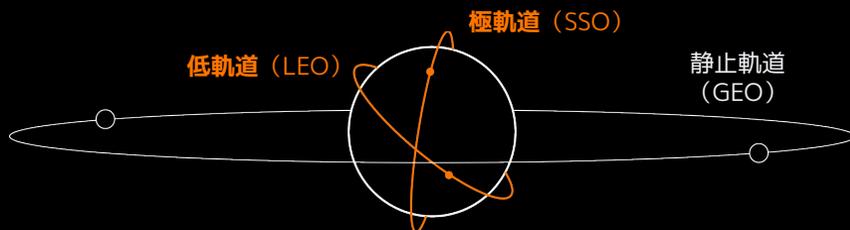
ISTのターゲット

ISTが対象とする衛星の種類

需要の高まる超小型衛星を対象



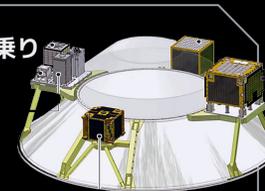
極軌道と地球低軌道への打上げ
(高度 550km)



ISTロケットへの積載方法

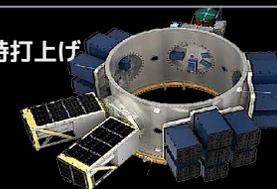
PIGGY BACK 大型衛星打上げとの相乗り
→中～大型ロケット

- kg単価が安い
- × 軌道を選べない
- × 遅れる可能性が高い
- × ミッションが制限される



RIDE SHARE 10～30機の同時打上げ
→小～大型ロケット

- kg単価が安い
- △ 軌道はある程度選べる
- × 調整が大変
- × ミッションが制限される



DEDICATED 専用打上げ
→小型ロケット

- 打ち上げ1回あたりの金額が安い
- 軌道を選べる
- 時期を選べる
- ミッション自由度が高い



ISTのロケット

ISTロケットの大きさ

市場カバレッジ戦略として小型ロケットを開発

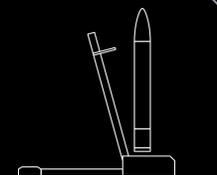


ISTロケットの技術的特徴

早期実現性・量産性・コストを優先した仕様を選択

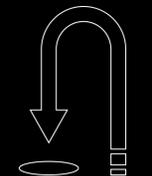
LAUNCHING

垂直 水平 エアロンチ ロックーン



RETURN

純粹落下 垂直着陸 水平着陸



ENGINE

GGサイクル 2段燃焼 エクスパンダー エアブリージング



PROPELLANT

炭化水素 水素 固体 ハイパーゴリック ハイブリッド

03

ZERO

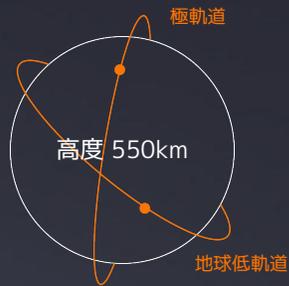
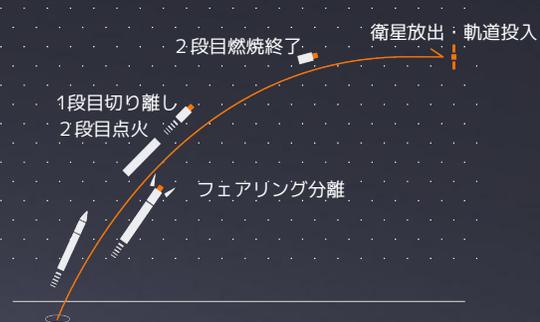
ロケットの仕様 | 提供価値 | 採用技術

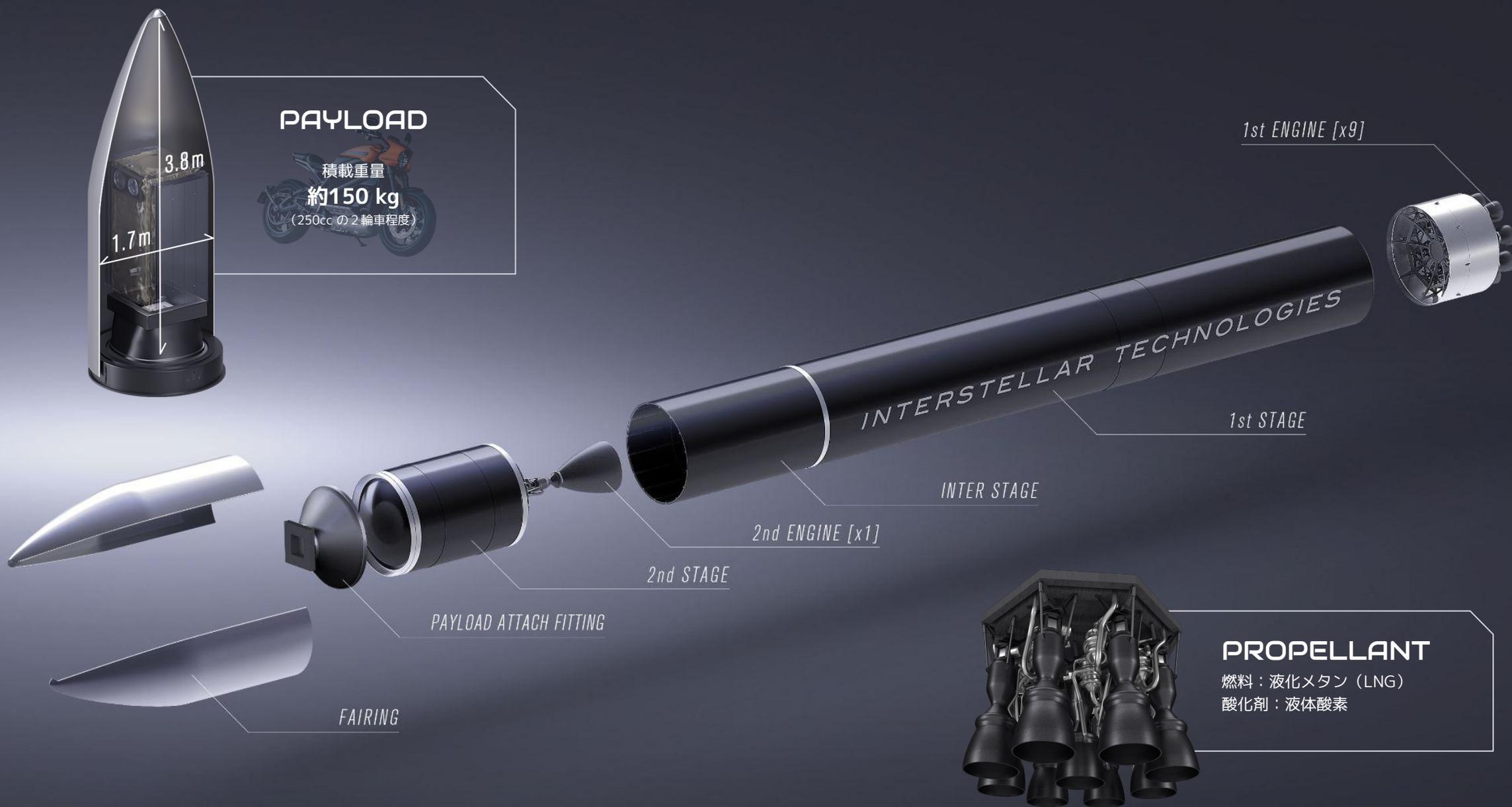


ZERO

超小型衛星打ち上げ ロケット

地球周回軌道上に超小型衛星を運ぶ2段式ロケット
低い軌道傾斜角から極軌道まで自由な軌道が選択可能





ZEROの提供価値

LOW COST

国際競争力のある低価格

従来、人工衛星用ロケットの打上げ価格は40~200億円ほどかかるが、ZEROでは一桁安価の6億円以下での打上げを目指し、人工衛星用ロケットではトップクラスの低価格を実現します。



ON-DEMAND

オンデマンド打上げ

人工衛星を打上げたいタイミングに行きたい場所（軌道）へ。短期間で機体製造～打上げまでを行い、クライアントの要望に合わせた打上げを行います。超低高度などの特殊な場所（軌道）へもお届けします。



WIDE ANGLE

東から南まで広角度に打上げ可能

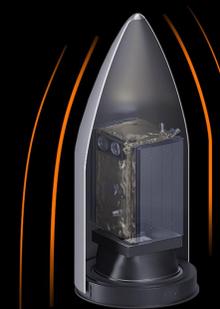
北海道スペースポート内のロケット射場では、東と南が海に開かれており両方向に打上げができます。両方向への打上げが可能なロケット射場は世界的にも珍しく、お客様の軌道のニーズにあわせた打上げサービスを提供することができます。



STABILITY

貨物にやさしい推進方式

液体燃料ロケットは固体燃料ロケットに比べて飛行時の振動が少なく、人工衛星への負荷をおさえて輸送することができます。

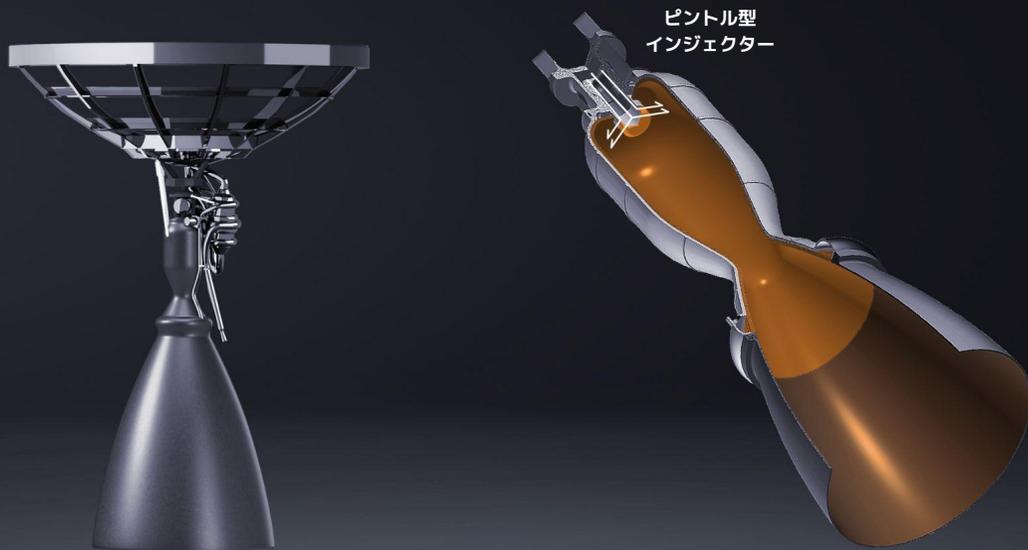


ZEROに採用されている技術

「液化メタン」「液体酸素」を推進剤とするエンジンシステム

燃料である液化メタンと酸化剤の液体酸素を燃焼室に送り込み
インジェクタで霧状にして燃焼させます。

東京大学との共同研究で独自に性能向上を実現した「ピントル型インジェクタ」を採用。
少ない部品点数による低コスト化、高い燃焼効率によるロケットの小型化・軽量化を実現します。



ピントル型
インジェクター

ロケット燃料における液化メタンの有用性

コスト：◎ 300 円 /kg

水素：3,000円 固体燃料：2,000円 ケロシン：1,000円

環境性：海洋◎ 大気○

ケロシン：海洋× 固体燃料：大気× 水素：大気△

再利用性：良好◎

ケロシン：スス発生 固体燃料：再利用不可

推進性能：高い○

水素ほどではないが十分に高い

宇宙での貯蔵性：良好◎

ケロシン：温度管理必要 固体燃料：課題あり

アビオニクス（電子装置）の技術実証

民生利用されている規格や部品を用いることで設計コスト低減



04 ADVANTAGE

ロケット実績 | MOMO | 量産設計 | 開発体制





ロケット開発の実績

2005

ISTの前身となる
民間宇宙開発を目指す組織
「なつのロケット団」を結成

2011

北海道大樹町にて
ロケット打上げ実験を開始

2017

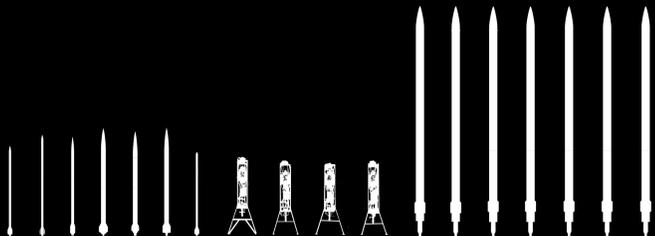
観測ロケット MOMO
の打上げを開始

2019

MOMOが
宇宙に到達

18機

ロケットの製造・打上げ実績
(2021年7月時点)



国内初

民間単独開発のロケットで
国内初の宇宙到達

国内唯一

炭化水素燃料ロケットの技術を国内で唯一保有
(IHI = 固体燃料、三菱重工 = 水素燃料)

世界4社目

液体ロケットでの宇宙到達は
民間企業では世界で4社目

- 1st SPACE X
- 2nd BLUE ORIGIN
- 3rd ROCKET LAB
- 4th IST

観測ロケット MOMO



打上げ実績

7回

2017年より北海道大樹町にて
合計7回の打上げを実施しました。

販売価格

1桁安価

MOMOは同等クラスの観測ロケット（2～5億円）
と比べて圧倒的な低価格を実現しています。

スポンサー

34件

初号機～7号機までで合計34社の企業・大学・個人
がスポンサーとして科学実験・企業PR・ブラン
ディングに活用いただいております。

将来の年間打ち上げ回数

10回/年

MOMOシリーズは量産化を進め
将来的に毎年10機以上の打上げを実現予定です。



MOMO 初号機
2017.7.30



MOMO 2号機
2018.6.30



宇宙品質にシフト
MOMO 3号機
2019.5.4



ベクターズドリーム
MOMO 4号機
2019.7.27



えんとつ町のプペル
MOMO 5号機
2020.6.14



ねじのロケット
MOMO 7号機
2021.7.3



TENGAロケット
MOMO 6号機
2021.7.31

量産・使い切りによる低価格化

量産を見越した設計・製造方法だからこそロケットを安くできる

少量生産・再使用

再使用回数にも制限がある

メンテナンスが必要

米国S社も再使用での低コスト化は限定的

量産・使い切り

量産による単価低減

1回使い切りの極限設計

メンテナンスが不要

開発体制

設計から打上げまで自社で一気通貫

設計・製造・試験・打上げ運用までのサイクルを全て社内でカバーできる体制は類を見ません。
自社で一気通貫させることで無駄や余分なコストを省き、スピーディな開発・製造、そして圧倒的低価格を実現します。

I
DEVELOPMENT
設計



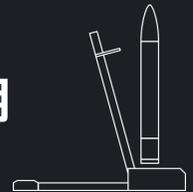
II
MANUFACTURING
製造



III
EXPERIMENT
試験・評価



IV
LAUNCH
打上げ運用



V RELATIONSHIP 外部との連携

I DEVELOPMENT

ロケットの主要コンポーネントを自社で独自開発

ENGINE

エンジンシステム全体を自社で開発

一般的なロケットエンジンは複雑で最高レベルの性能を目指すため高額ですが、IST独自の工夫で部品点数を削減し、必要十分な性能レベルで低価格かつ量産可能なエンジンを生み出しました。

STRUCTURE

構造・素材

MOMOは、CFRPの外装、アルミ合金のリング・ストリンガー構造で作られています。アルミ素材で作られる推進剤のタンクは、社内で溶接。ISTが誇る生産技術です。

CONTROL

ジンバルシステムでの経路誘導

姿勢制御機能を持つMOMOでは飛行中にジンバルシステムを使ってロケットエンジンを動かし、正確な飛行経路への誘導を行っています。ZEROにも本技術を活用予定です。

アビオニクスでの制御

ロケットは自動運転で飛行していくため、アビオニクス（電子装置）での制御を行っています。ハード・ソフトウェアは内製し、時には民生品も活用。誘導制御の計算タイミングを10万分の1秒単位で精密に規定するなど、飛行経路制御の精度を向上させました。



II MANUFACTURING

圧倒的な低価格・高品質を支える製造設備

IN-HOUSE

高い内製率

北海道大樹町に3工場、千葉県浦安市に1工場を持ち、加工・製造工場を自社で保有しています。部品内製率は50%以上を実現しました。

MADE IN JAPAN

部品を国内で生産

部品を国内で生産し、他国の影響をなく事業継続が可能な環境を実現しました。

PARTS REDUCTION

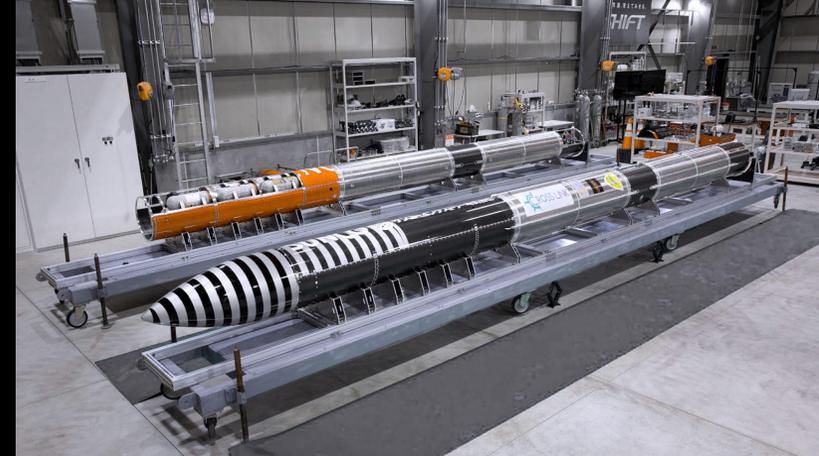
部品数の削減

ロケットを構成する部品を一つ一つ見直し、従来は数百パーツあったコンポーネントを数パーツで構成するなど、部品点数を削減しています。

TECHNOLOGY

3Dプリンターなどの最新技術

3Dプリンター等の技術を活用し、軽量な専用部品を自社で製造しています。



III EXPERIMENT

IV LAUNCH

専用の実験場・ロケット射場

北海道大樹町の宇宙港「北海道スペースポート（HOSPO）」内の「Launch Complex-0」は、インターステラテクノロジズ専用の射場・実験場として稼働しています。

SPECIALITY

専用のロケット射場と実験場

世界中に約20箇所の射場がありますが、専用の射場を持つ民間企業はごく僅かです。設備の最適化、コントロール等が可能であり大きなアドバンテージです。

EQUIPMENT

専用だから実現する設備

短秒時から長秒時のエンジン燃焼試験設備・打上げ設備・組立棟(VAB)・推進剤タンクなどを保有。耐候性やメンテナンス性が高く、高頻度の試験や打上げにも対応可能です。

ACCESSIBILITY

工場からの圧倒的な近さ

大樹町本社・工場から7.5kmの距離にあり、開発と実験のサイクルを早めることが可能です。（他社では、米国西海岸の工場から東海岸の射場までロケットを輸送するケースもあります）

北海道スペースポート
Launch Complex-0

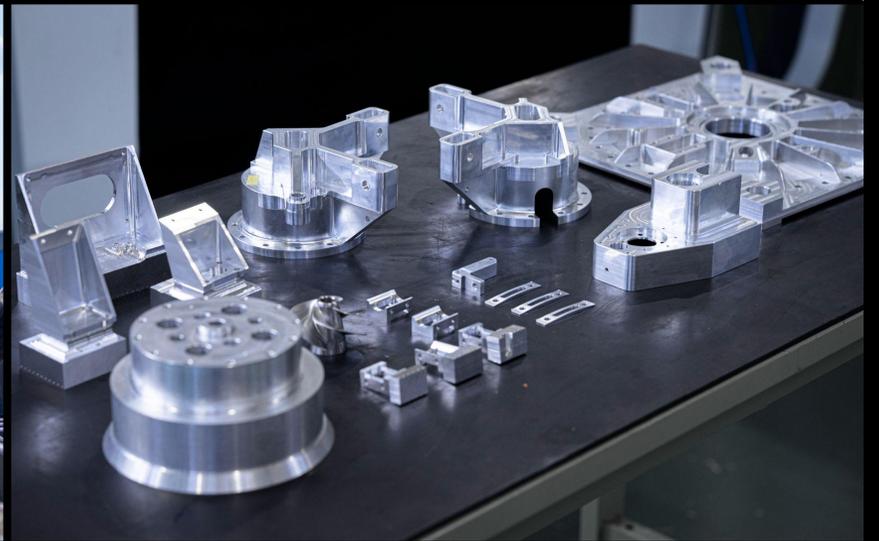


移動・起立式ランチャー（発射台）



工場と射場の距離は 約7.5km







地域からのサポート

北海道大樹町（自治体）から宇宙事業費補助やMOMOの打上げ協力を受けたり、北海道スペースポートの「Launch Complex-0」をインターステラテクノロジズ専用の射場・実験場として提供いただくなど、非常に優遇されています。また、町内に「インターステラテクノロジズ後援会」が結成されるなど、地域からも支えられています。



ロケットエンジンの共創

新たな宇宙事業を共創する研究開発プログラム「J-SPARC (JAXA 宇宙イノベーションパートナーシップ)」に基づき、低コスト宇宙輸送サービスの実現に向けたロケットエンジンの研究開発を行います。また、JAXAのクロスアポイントメント制度により、2020年からエンジニアを1名出向受け入れています。



ZEROのターボポンプを共同研究

室蘭工業大学の航空宇宙機システム研究センターと共に共同研究を行い、同大学が持つターボ機械やロケットシステムへの知見を共有いただきながら開発を進めています。2020年にはIST室蘭技術研究所を大学内に開設し、社員が数名常駐しています。

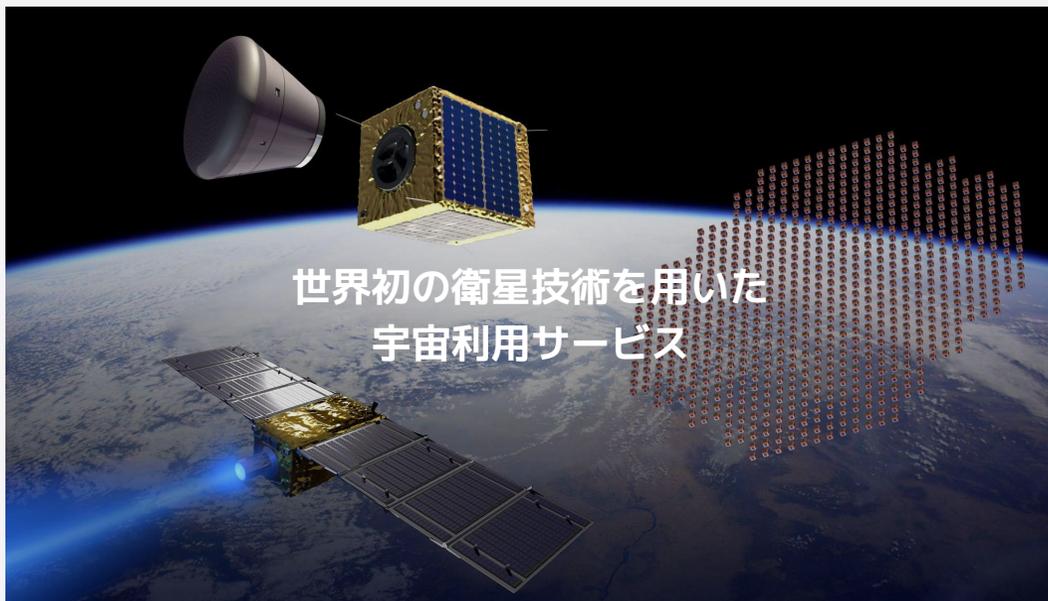
05

NEXT STEP

Our Stars | 北海道スペースポート | ビジネスモデル | ZEROを超えて



人工衛星・ロケット・宇宙港 3社による垂直統合サービス



世界初の衛星技術を用いた
宇宙利用サービス

2021年1月にISTの子会社として設立した
小型人工衛星会社「Our Stars」が推進

(堀江貴文が代表取締役社長に就任)



アジア初の民間にひらかれた宇宙港
「北海道スペースポート」

運営会社「SPACE COTAN」の設立により
2021年4月から本格稼働

人工衛星ロケット用の射場・スペースプレーン用の滑走路など
を整備し宇宙ビジネスのインフラを構築中

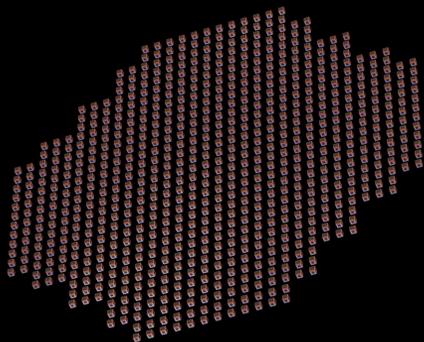
Our Stars がもたらす技術革新

OurStarsはZEROに最適化された超小型人工衛星を研究開発・製造。
ISTはOurStarsの人工衛星を考慮してロケット設計することで、
より早くより便利に人工衛星サービスの提供を可能にします。

COMMUNICATION

フォーメーションフライトによる 通信衛星サービス

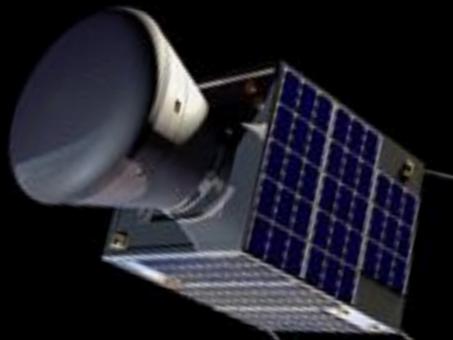
ピンポン玉サイズの超小型衛星 数千個を編隊飛行させ、大きなアンテナの機能を果たすことで、大型衛星以上の通信性能を実現。数千個の衛星が配置するため、幾つかの衛星が壊れても全体の機能は失われずに安定したサービス提供が可能です。



EXPERIMENTAL

宇宙実験用衛星 回収カプセル

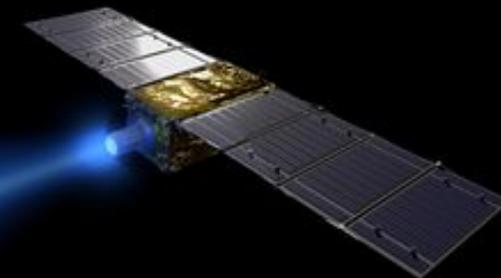
ポストISS時代の無重力実験環境を提供。早期・高頻度な実験を可能とし、宇宙実験をより身近なものに変えていきます。実験サンプルを載せたカプセルはその後地球に帰還し地表、海上などで回収します。



EARTH OBSERVATION

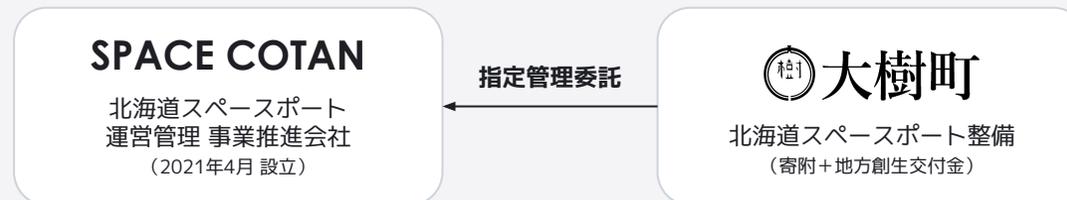
超低高度リモートセンシング衛星による 地球観測サービス（「はやぶさ」の技術を利用）

高度200km以下の超低高度を周回して地球を観測。国内宇宙機関で開発されている高分解能の超低高度衛星の技術を実用化することを目指します。特殊な軌道に届けるために重要なロケットとの調整は垂直統合の強みです。



現在、2022年のシリーズA資金調達を目指し「フィージビリティ・スタディ」を実施中

北海道スペースポート



LAUNCH COMPLEX 1

ZEROの打上げを想定した射場

ZEROの打上げを想定し、人工衛星ロケット用の射場を専用設計。
(2023年に完成予定)



LAUNCH COMPLEX 2

年間 最大50回の打上げを目指す

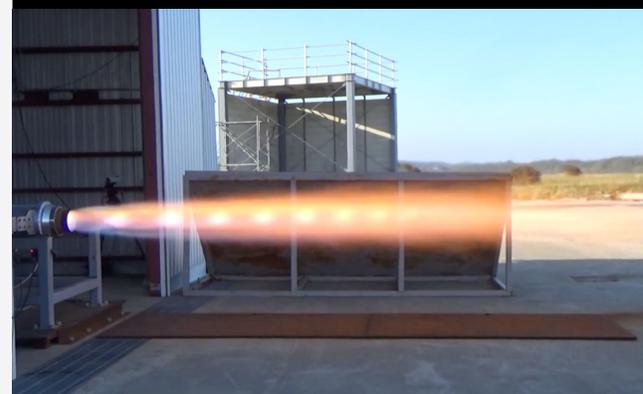
年間最大50回のZEROの打上げを想定し、複数の機体の打上げ準備を行う組立棟(VAB)を完備。
(2025年に完成予定)



FIRING TEST

エンジン燃焼試験設備

「Launch Complex-1」にはエンジン燃焼試験設備も完備しZEROの開発を推進。



北海道スペースポート

オール北海道

大樹町のSPACE COTAN株式会社を中心として
北海道・北海道経済連合会等の多くの応援団とともに北海道スペースポートプロジェクトを推進中

267 億円

北海道スペースポートの整備
による年間の道内経済効果

北海道経済連合会・日本政策投資銀行
にて算出



酒森 正人
大樹町長



小田切 義憲
SPACE COTAN株式会社
代表取締役社長 兼 CEO



鈴木 直道
北海道知事



真弓 明彦
北海道経済連合会 会長



米沢 則寿
とちか航空宇宙産業基地
誘致期成会 会長・帯広市長



今津 寛
北海道スペースポート研究会 会長

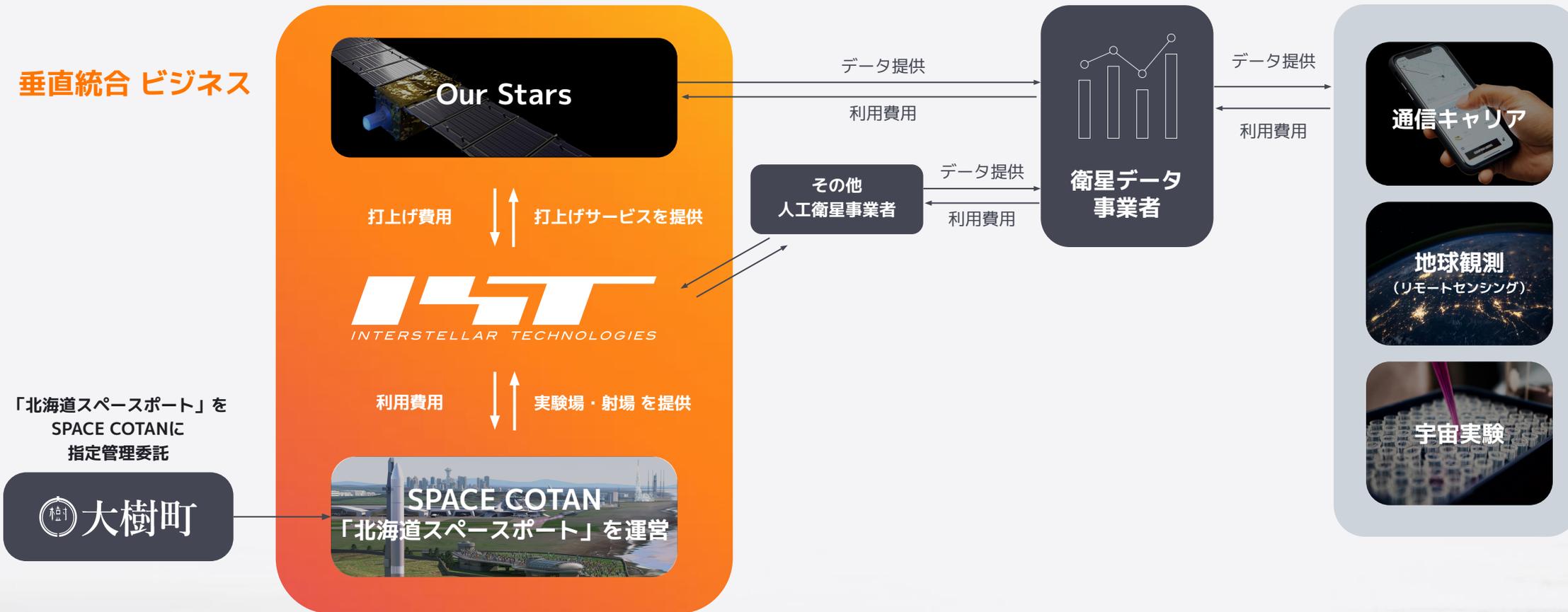


上杉 邦憲
北海道宇宙科学技術創成センター
(HASTIC) 理事長

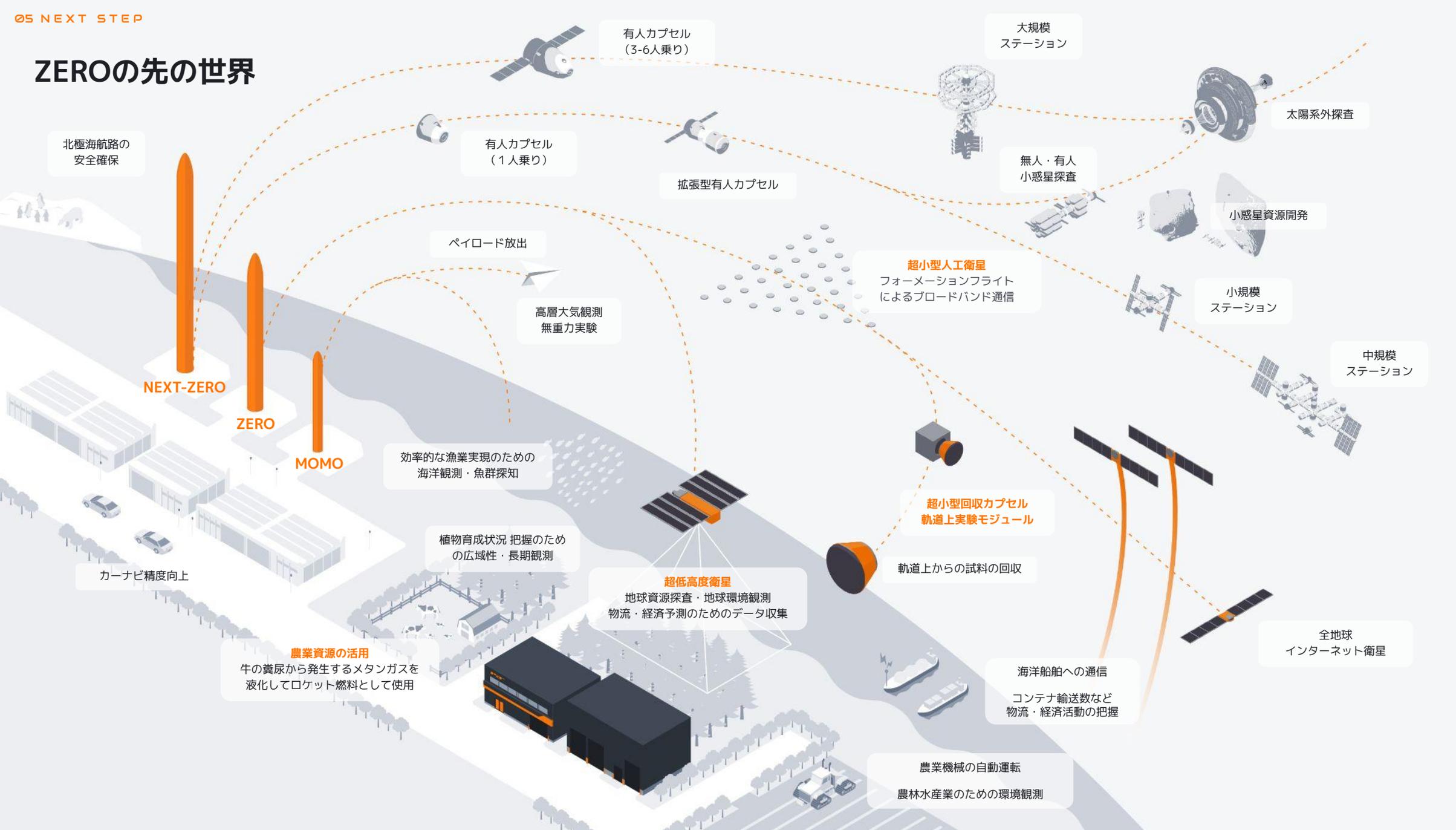
ビジネスモデル

ZEROの打上げを想定した射場、Our Starsの人工衛星を考慮したロケット設計
 3社で垂直統合的に事業を展開することで
 競合他社に負けないスピードでサービスを提供します

垂直統合 ビジネス



ZEROの先の世界



06

COMPANY DETAIL

会社実績 | パートナー | メンバー

会社実績

ロケット事業をベースに売上を拡大
クラウドファンディングでは過去6回のプロジェクトで多くのファンが支援

3.0 億円

MOMO初号機～7号機
売上合計

1.9 億円

経済産業省
受託事業

2.4 億円

ふるさと納税
寄附金合計

6500 名

クラウドファンディング
支援者数

インターステラテクノロジズとの関わり方

ブランディング、CSR、新規事業開発、インナーモチベーション、人工衛星の打上げ(ZERO)、宇宙での微小重力等の実験(MOMO)など目的は様々

MOMO機体スポンサー（ロケット毎）

企業・商品のプロモーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ロケット打上げに関する広告 機体広告／ペイロード／ネーミングライツなど
---------------	---

みんなのロケットパートナーズ（通年）

経済的支援	金銭的支援
共同研究	東京大学、東北大学、室蘭工業大学、高知工科大学など、様々な大学や研究機関、大林組などの民間企業との共同研究を実施しています。
技術・物資支援	株式会社サンケミ様、日本エア・リキード株式会社様等から実験や開発に必要な技術や物資をサポート頂いております。
人材支援	トヨタ自動車や古河電工などからエンジニア出向していただいています。企業の人材育成や研究者の活躍促進に役立てていただきます。

MOMO機体スポンサー

④カスタム
パイロード

⑤標準搭載
パイロード



①機体広告
フェアリング部
塗装/ステッカー

②機体広告
CFRP部/塗装
エタノールタンク部/ステッカー

③機体ネーミングライツ

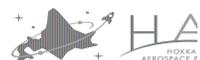


みんなの ロケット パートナーズ

ISTが立ち上げた、宇宙輸送事業の実現を後押しする法人サポーターズクラブ

全 **28** 企業・団体

(2021年7月時点)





1892年の創業以来、「誠実なものづくりの姿勢」や「技術力」という先人たちが継承してきたDNAを根幹に、時代を象徴する数々のプロジェクトに携わってきた株式会社大林組。これまで培われた強みやノウハウを活用し、ロケット射場の建設に資するデータ計測や検討を、サポートして頂いております。

▼400mまでの風向風速が測れるドップラーライダー設置の様子



観測ロケット「MOMO」の開発において、ロケットの機体を垂直に立てた状態で燃焼試験を行う縦吹き試験で使用する「縦吹き架台」の製作、また、衛星軌道投入用ロケット「ZERO」の実験架台やランチャーの製作でサポートして頂いております。

▼燃焼実験を行う縦吹き架台



▼燃焼実験用の防音壁





みんなの
ロケット
パートナーズ



メニュー	T	P	G	S	O
射場ネーミングライツ	○				
射場広告 (S)	○				
射場または組立棟内広告 (A)		○			
射場または組立棟内広告 (B)			○		
射場または組立棟内広告 (C)				○	
射場にお名前掲示	○	○	○	○	○
インタビューボードロゴ	○	○			
ユニフォーム	○	○			
打上げ時生中継のCM放映権	○	○	○		
ウェブサイト内のお名前掲示	○	○	○	○	○
打上げ前夜祭 参加権利	○	○	○	○	○
打上げ見学参加	○	○	○	○	○
堀江を講演会に呼べる or ホリエモンチャンネル出演権	○	○	○		
ロゴ、ロケット画像の使用権	○	○	○	○	○
オフィシャルスポンサー呼称権	○	○	○	○	○
コラボ商品開発の権利	○	○	○	○	○
活動報告書 (年1回発行)	○	○	○	○	○



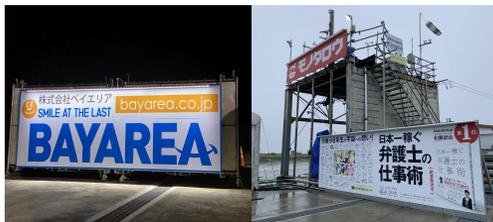
T 射場ネーミングライツ

日本の稼働している射場3つのうちの1つであるISTの射場に企業名をつけることが可能です。宇宙産業への貢献度を最も感じさせることが出来る箇所です。



P G 射場/組立棟内広告

射場内に、企業ロゴを掲載することができます。(詳細は次ページをご参照下さい。)



T P G SO 射場にお名前掲示

射場内に、企業名を掲載することができます。写真はイメージです。



T P ユニフォーム

弊社ユニフォームに企業ロゴを掲載いたします。主に記者会見や打上げ中継等で露出する予定です。



T P インタビューボードロゴ

打上げ後のオンライン記者会見時等に表示します。メディアでの露出が多く期待される箇所です。



T P G 打上げ時中継のCM放映権 (予定)

今後、打上げ30分程前から中継を行う予定です。その際に、CMを放映することが可能です。





ロケット射場看板

S	縦2m×横6m	2023年3月～
A1	縦1.2m×横5.5m	2021年12月～
A2	縦1.2m×横5.5m	2021年11月～
B1	縦2m×横3m	2021年12月～
B2	縦2m×横3m	2021年12月～
B3	縦2m×横3m	2022年05月～
B4	縦2m×横3m	2021年12月～
B5	縦2m×横3m	◎
B6	縦2m×横3m	◎
C	縦0.36m×横0.91m	◎



ロケット工場看板

A1	縦1.5m×横3m	◎
A2	縦1.5m×横3m	◎
A3	縦1.5m×横3m	◎
B1	縦2m×横6m	◎
B2	縦2m×横6m	◎
B3	縦2m×横6m	◎
B4	縦2m×横6m	◎
C1	縦1.5m×横3m	◎
C2	縦1.5m×横3m	2023年3月～

企業版ふるさと納税

大樹町が実施する「企業版ふるさと納税」への寄附で、税控除でのメリットを受けながら、ロケット開発を応援することができます。
2020年4月より、決済時には、寄付額から最大で約9割分の税金が減額されるようになりました。

申し込み方法（申込みからだいたい1ヶ月ほどで完了）

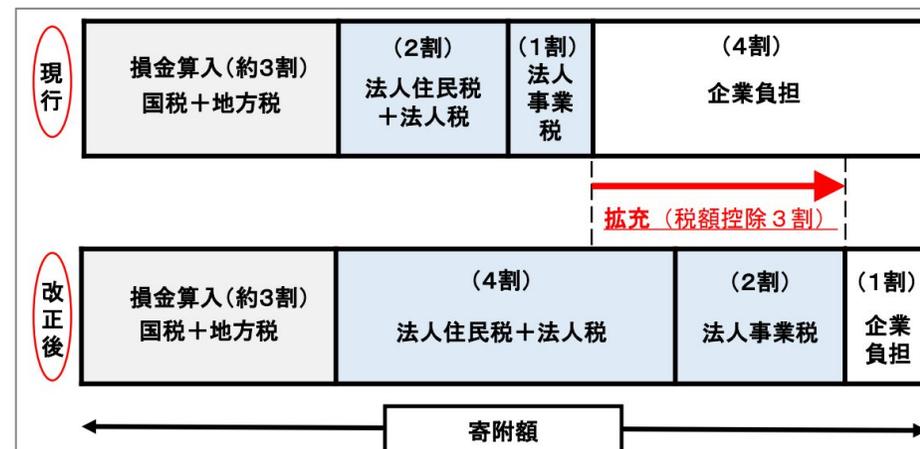
1. 大樹町ホームページにある申込書に必要事項を記入
2. ホームページにある問い合わせ先に提出
3. 申込書から2週間ほどで納入通知書を郵送
4. 寄附金の入金から2週間ほどで受領書を郵送

寄附先

1. 航空公園機能拡充事業
（北海道スペースポート支援、ZEROの打上げ射場建設のための資金になります）
2. 航空宇宙関連ビジネス推進事業

寄付額からの控除について

法人住民税	寄附額の40%を税額控除	法人住民税法人税割額の20%が上限
法人税	法人住民税で40%に達しない場合、その残額を税額控除	寄附額の10%を限度 法人税額の5%が上限
法人事業税	寄附額の20%を税額控除	法人事業税額の20%が上限



注意点

1. およそ1割の負担で実施できる寄附の上限に関しては、課税対象所得の1%前後と言われていきます。各企業の税務状況により大きく上下するため、詳細は顧問の税理士にご確認ください。
2. 2020年4月より改正された税制優遇の適用は、各企業の事業年度基準（新事業年度から）となります。たとえば、6月決算の企業様の場合には、2020年7月1日以降に行われた企業版ふるさと納税が、税額控除6割の対象となります。

役員



稲川 貴大

代表取締役

ロケット開発技術もリード

東京工業大学大学院機械物理工学専攻修了
 大学時代に人力飛行機の全体設計責任者を経験・「鳥人間コンテスト」優勝
 北海道科学大学 客員准教授
 東京大学 非常勤講師
 文科省将来宇宙輸送技術検討小委員会 委員



大久保 紀章

取締役

海外営業を担当

「Scentan Ventures」マネージングパートナー就任
 インターネット、テクノロジー、メディア分野における
 投資先の選定や投資先の事業拡大支援に注力
 2014年「Tradeshift Japan」設立
 海外経験が長く、海外への営業や資金調達サポートを行う



堀江 貴文

取締役・ファウンダー

資金調達・営業を担当

東京大学在学中「オン・ザ・エッジ」設立
 後ライブドア代表取締役CEO
 2006 弊社の前身組織「なつのロケット団」に参画
 2017 取締役に就任



岡崎 徹

取締役

国内・海外市場における営業支援

1991 丸紅株式会社入社
 2018 丸紅株式会社 航空・船舶本部 副本部長
 2019 当社取締役就任
 業務・資本提携先の丸紅より総合商社の知見を活かし、
 経営面でのアドバイスも行う



三戸 政和

取締役

VCのネットワークに強み

ソフトバンク・インベストメントのベンチャーキャピタリストとして
 日本やシンガポール、インドのファンドを担当
 ベンチャー投資や投資先にてM&A・株式上場支援などを行う
 2011年兵庫県議会議員に当選し、行政改革を推進



小林 徹

取締役

CFO、管理業務を担当

京大大学経済学部卒業
 在学中に中小企業診断士資格を取得
 三井住友銀行で法人営業・融資業務を経験し、2016 当社入社
 CFO兼管理部長として財務、経理、法務等社内の管理部門責任者を務める



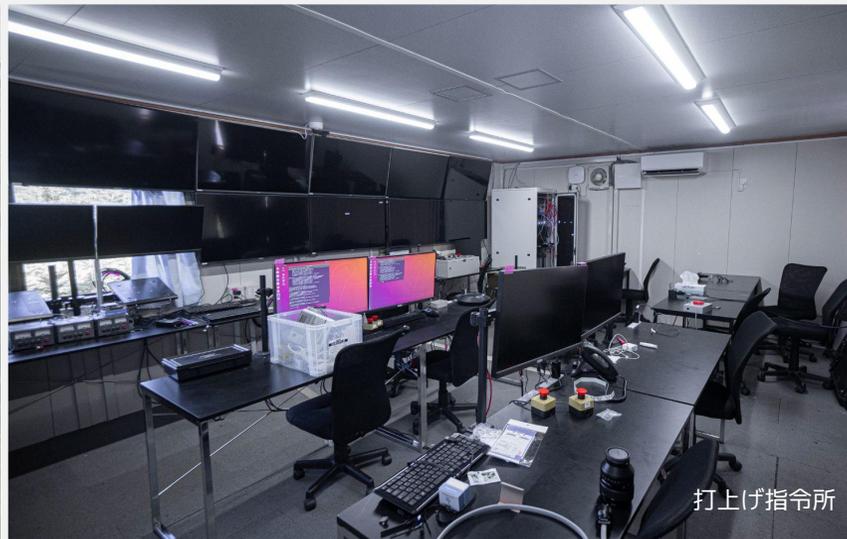
本社 事務所



本社工場・組立棟



射場・実験場
北海道スペースポート「Launch Complex-0」



打上げ指令所

07 REFERENCE

新興宇宙企業の証券市場評価

(2021年6月現在)

	創業年	事業内容	企業価値	上場年
	2002	無人・有人 大型ロケット	\$74,000M	非上場
	2004	有人ロケット サブオービタル	\$8,800M	2019
	2007	無人 小型ロケット	\$4,100M	2021
	2016	無人 小型ロケット	\$2,100M	2021
	2017	軌道上輸送	\$1,200M	2021
	2014	地球観測衛星	\$1,500M	2021
	2012	小型コンステ衛星	\$1,200M	2021
	2017	通信衛星	\$1,400M	2021
	2020	宇宙インフラ	\$780M	2021